

2016年度 SIP-adus 施策概要

施策名	ダイナミックマップのサービスプラットフォームに必要な調査及び検討
担当組織	富士通株式会社

研究代表者名 矢ヶ崎 功

プロジェクトの目標、背景

経済的発展と社会的課題の解決を目的としたSociety5.0(サイバーフィジカルシステム)では、総合戦略2015で定めた11システムのうち「高度道路交通システム」がコアシステムの一つとして取り上げられており、新たな価値・サービス創出に向けてダイナミックマップを複数システム間で利活用するためのプラットフォーム構築が必要となっている。

このような状況の中、戦略的イノベーションプログラム(SIP)の自動走行システムにおいて構築を目指しているダイナミックマップを他分野、多用途に活用するためのサービス基盤となる「ダイナミックマップ サービスプラットフォーム」を実現することが重要となる。

本プロジェクトでは、政府施策の一環として、高度なICT技術と多岐に渡る関係者の総力を結集することで、今後様々な分野で共通にサービス活用される「ダイナミックマップ サービスプラットフォーム」構想の策定を目標とする。

プロジェクトの概要

本プロジェクトでは、新たな価値・サービス創出に向けてダイナミックマップを様々なシステム間で利活用するためのサービスプラットフォームを構築するために必要な調査及び検討を行った。

1. ユースケース調査

ダイナミックマップサービスプラットフォームを活用する7つの分野(物流、パーソナルナビ、道路管理、自動車サービス、農業、電力・通信、建設)についてサービスモデルを検討し、ニーズの有無、実現可能性について調査を行った。

また、各サービスモデルで必要となる情報処理について調査を行い、ダイナミックマップサービスプラットフォームのサービスアーキテクチャを検討する上で必要となる要求事項を整理した。

2. サービスアーキテクチャの検討

ユースケース調査で整理したサービスアーキテクチャへの要求事項を踏まえて、地理情報や地図情報(3D基盤的地図)を様々な分野で流通させるために必要なシステムの機能の検討を行った。

また、サービスアーキテクチャを具体化する上で考慮すべき事項について、拡張性、アクセス性、セキュリティの観点で検討した。

3. 事業化に向けた検討

ダイナミックマップサービスプラットフォームを事業として運営するために必要な事業モデルと体制について検討を行った。

4. 多様な関係者との連携に関する検討

先行して検討が進んでいる海外類似事業について調査し、ダイナミックマップサービスプラットフォームとの連携について検討を行った。また、ダイナミックマップサービスプラットフォームの事業化に向けて必要となる国内関係者との連携について検討を行った。

今後の課題

1. ダイナミックマップサービスプラットフォームの利用を促進するための環境作り

各分野の官・民の業界団体などの支援を受けて、地理情報、地図情報の保有元から本プラットフォームへの情報提供を促進し、本プラットフォームを利用する企業／法人を増やすための環境作りに取り組む必要がある。

2. 各種システムと連携するためのインターフェースの仕様策定

各種システムと連携して情報を取得／出力するために、連携先システムの仕様を確認の上、本プラットフォームで必要となるインターフェースの仕様(API、認証方法など)を決める必要がある。

3. 本プラットフォーム独自の付加価値情報の提供

本プラットフォームの事業規模を拡大するには、多種多様な情報を本プラットフォームが収集して分析し、特定の業種／分野で協調的に利用されるような付加価値となる情報を創出して提供することが重要な課題である。